

編集委員会便り

消費は文化のバロメーターといわれたアメリカ的な生活様式は、豊かさの憧れであり、今まで多くの人々がそれを信じて行動してきた。しかし、その生活様式は大量の資源消費と使い捨てを基本に成り立っており、今日の深刻な環境汚染と廃棄物問題を発生することにもなった。今や、先進国はその生活様式を改めない限り、明るい未来が開けなくなっている。

これからの環境保全は、これまでの廃棄物処理といった公衆衛生の立場からのアプローチではなく、産業や生活様式も含めた総合的な視点から検討していくことが重要である。そして単に製品だけでなく社会システムについても環境重視の対策を考えていく必要がある。そのためには、国や自治体はもちろん、その支援のもとに、生産者、流通業者、消費者がそれぞれの立場で減量化、再資源化を積極的に進めていくことが求めら

れる。

今回の特集は、そういった総合的な視点からリサイクル問題を取上げ、我が国におけるリサイクル社会の可能性をそれぞれの専門の立場から展望することを目的としたものである。内容は、飲料容器、プラスチック、金属材料など素材のリサイクル、ゴミ発電のようなエネルギーリサイクル、それにリサイクルしやすい製品設計とリサイクル支援策など多岐にわたっている。大量消費と大量廃棄を改めた新しいリサイクル社会の構築は、社会が持続可能な発展をしていくには不可欠である。今回の特集が、その一助になれば幸いである。

内山洋司

(財)電力中央研究所 経済社会研究所

技術評価グループリーダー)

